

crash syndrome（挫滅症候群）について

【crash syndrome（挫滅症候群）とは】

倒壊した家屋などに1時間以上、体の一部を挟まれていた場合、筋組織が損傷や壊死におちいります。

この挟まれている状態だけでも腎不全を起こす危険性がありますが、救出により圧迫から解放された後、

壊死した筋肉からカリウムやミオグロビンといった物質が流出することで、急性腎不全や、高カリウム血症からの心停止などへつながることがあります。

これを crash syndrome（挫滅症候群）と呼びます。

【crash syndrome（挫滅症候群）の特徴】

救急救命の対象なので病院搬送されることがほとんどですが、自力で脱出したり、一般の方々によって救出されたために医療的ケアを受けずに避難所等を訪れた場合、鍼灸マッサージ師が最初に出会う医療者となる可能性も否めないため、その特徴を整理し、以下に示します。

- ・ 1時間以上にわたり、がれき等（たんすやその他、重量物）の下敷き状態であった
- ・ 挟まれていた箇所が点状に出血している
- ・ 圧迫されていた部位に麻痺がある
- ・ 圧迫されていた部位に感覚障害（特に痛覚と触覚の消失）がある
- ・ 圧迫されていた部位にむくみがある
- ・ 尿が茶色（血尿）
- ・ 尿量減少

このような特徴を持った方がいらした場合は、即座に現場医療職へ報告しましょう。

なお、発症までの時間は、救出直後から数日後まで様々です。これは傷病者の年齢、基礎疾患の他、圧迫の時間や点滴投与までの時間等、様々な要件によるため、明記困難です。

協力：広島国際大学 救急救命士 諫山憲司先生

2016/04/18

災害鍼灸マッサージプロジェクト